



# 樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校  
〒080-2473  
北海道帯広市西23条南2丁目12番地  
TEL: 0155 (37) 5501  
発行日 令和6年4月30日

## 新しき栄光へ令和6年度がスタート!



4月8日、令和6年度入学式が挙行されました。吹奏楽の演奏をバックに緊張した面持ちで入場した後、一人ずつ呼名された240名は晴れて本校の入学を許可されました。そして、新入生を代表して横山さらさんが、「新たな仲間である同級生と学び協力し合いながら、共に前に進み悔いの残らないよう日々を過ごす」ことを力強く誓いました。最後に合唱部による校歌紹介で式は終了しました。

10日には対面式が行われました。応援団とチアの歓迎を受けて緊張の表情で入場した新入生。最初に校長と生徒会長・川原良佳さんの歓迎の挨拶の後、校歌・応援歌で上級生たちから熱烈歓迎されました。その後の部活動紹介では、各部がそれぞれ工夫を凝らし、活動内容や部の雰囲気が入学生に十分伝わったようでした。最後に新入生を代表して伊藤結愛さんが感謝の言葉とこれからの抱負を述べて終了しました。

### 1年宿泊研修

17日～19日の3日間、糠平で宿泊研修が行われました。三条高校で学ぶ意義や探究的な学びの方法をはじめ、自然体験学習、進路ガイダンスなどバラエティーに富んだ研修をしました。担当の先生が工夫を凝らし、生徒が協力し合う活動が多く、お互いが自然とコミュニケーションが図られるようになっていました。

最初は緊張気味だった集団も、研修を重ねる度にお互いを理解しあうことができたようで、レクリエーションでは大いに盛り上がり、年次の一体感を得ることができました。最後に笑華尊塾代表・塩谷隆治さんのモチベーションアップ講座が行われ、やる気を引き出す具体的な方法を教えていただきました。これからがスタートです。ともに手を取り、笑顔で前に進みましょう!



### スクールカウンセラーの先生紹介

今年度のスクールカウンセラーの先生を紹介します。昨年に引き続き、佐々木あずさ先生に月に一度のペースで本校に来ていただくことになりました。先生からのメッセージです。

はじめまして。スクールカウンセラーの佐々木あずさです。

生まれは旭川ですが、子どもの頃は親の転勤に伴い、北海道、東北、関東などで過ごしました。そのせいか、あちこち移動することが大好きです。20代はアルバイトをしてお金をためては国内外を気ままに歩き回っていました。旅先で出会った人、食べ物、匂いや喧噪を懐かしく感じる今日この頃。あの時、放浪してよかったなあと思っています。

小さい時から落ち着きがなく、ボーっとしていたので忘れ物や遅刻が多かったのですが、こうして自分の人生を愉しんでいます。小学校入学時には引っ込み思案で人見知りの強い子どもだったのに、いつのまにかおしゃべりで人前に入ることをいとわない人間になってしまいました。

こんな私ですが、よろしく願います。気軽にお声掛けいただけると嬉しいです。



## 第36回 3年3組担任 村上陽一 教諭

# 芸術（美しいもの）に触れると幸せになる！



### ◆美術はある程度知識

絵を描くのは子どもの頃から好きでした。ドラえもんとか宇宙戦艦ヤマトとか一生懸命描いていました。多分、本当は絵を描くのは誰でも好きなんだと思うんです。小さな子にクレヨンを渡すとみんな一心不乱に描きますよね。ところが成長するに従って、描こうとイメージするものと実際の絵が違ってくるようになってきて、だんだん絵を描くのが嫌になってしまう人が多いのだと思うのです。

私が子どもの頃の美術の授業というものは「自由に描け」というスタイルが多かったです。でもいきなりそう放り出されても「はて、何を描けばいいのか？」と困る人が多いのではないのでしょうか。ですから私はきっかけ作りから指導していきます。たとえば、自分の心が動くものは何かを考えさせたり、キーワードから発想を広げたりして、そこにどう描くかという技法や何を用いて描くかという道具などを組み合わせていくといい絵になっていきます。ですから美術もある程度は知識だと言えるのです。

### ◆美術部は途中入部

私はずっと美術を志望していたわけではありません。むしろ高校入学時は工学系の大学に進学したいと思っていたほどです。ところが美術を選択したら、デザインや絵画をとて面白く教えてくれたのです。その先生に憧れて高校2年の夏休み前に美術部に入部してしまいました。描いた作品がいきなり全道に選ばれてすっかりその気になってしまいました(笑)。大学でも美術をやりたいなって教育大札幌へ進学しようと思ったのですが、それは上手いはず、1年美術専門の予備校へ通うことにな

りました。ところが、ずっと絵を描いていられたのでそれが楽しくてこのままずっとここで過ごしたいと思ったほどでした。

大学では入学後の2年間に美術に関する全ての分野を学びます。ほとんどの人が絵しか知らないのですが、絵画も油彩、水彩、日本画。他に彫刻、染め物、木工など様々な分野を学ぶことで本当にやりたいことが見えてくるのです。私は結局絵画を専攻しましたが、この学びは大変有意義なものでした。

### ◆芸術のすすめ

私はずっとヨーロッパ中世の建物や町並みが好きで、実際にイタリアやフランスを訪ねてその思いを一層強くしました。作品制作は自分の中にある世界観を表現していく作業です。時間、場所、建物、人物そういったものの配置を考えて描いていくのです。自分にとって自分を表現する方法が“絵”であったと言えるのかもしれません。

芸術（美術）に触れると幸せな気持ちになります。美しいものに出会って、それを美しいと感じることでもとても幸せな気持ちになるのです。もし自分が辛い状況にあったとしても、芸術に触れることで穏やかな心になります。逆に美を作り出していく側にとっても、それを作り出すことで救われる人もいると思うと、とても励みになります。つまり、自分を表現することで自分の存在価値を見いだすことにもなるのです。そしてまた一步を踏み出せるようになるのです。

生徒たちには芸術にもっと触れてほしいと思います。

## インタビュー

三条高校で輝いている生徒を紹介します。

# キラリ

## 2023インターハイ・スピードスケート競技 学校対抗2連覇に貢献

### 3年5組 山田怜歩 さん 2年2組 奥秋静子 さん



1月に行われたインターハイ・スピードスケート500m優勝の奥秋静子さん、2月に行われた全国高校選抜1000m優勝の山田怜歩さんにお話を伺いました。

インターハイでは学校対抗総合2連覇の原動力となった二人。まず奥秋さんにインターハイで優勝した時の気持ちを聞きました。「純粋に嬉しかったのですが、ゴール直前にコケそうになってしまってそれがなければもっと良い記録がでたのに、という気持ちも正直ありました」。実はインターハイは現在大会が開催できる最南端の岐阜県恵那市が会場で、当日は生憎の雨の中の競技でした。北海道の選手は雨の中のレースは経験したことがありませんから、ものすごく過酷な状況だったのです。それを話題にすると、二人とも「初めての経験で大変でした。身体は冷えてくるし、ワンピースもどンドン濡れてくるし、最悪でした」と笑いながら答えてくれました。それでもしっかり結果を出したのはさすがです。奥秋さんは中学1年では長距離だったそうで、中2で中距離に転向し1000mを練習しているうちに、最初のスピードが落ちないということでスプリントがいいのかなと思い、高校で500mに挑戦したということです。そして1年生で頂点に立つのですから恐れ入ります！目標を聞くとズバリ「世界」と答え、「そのためにはミスをなくし、プレッ

シャーを力に変えられるようになりたい」と力強く答えてくれました。

一方、山田さんに高校選抜で優勝した時の気持ちを聞くと「まずホッとしました」と一言。インターハイでは先輩である3年河原さんに次いで2位。3年生が抜けた選抜では、当然優勝しなければいけないというプレッシャーがあったのだそうです。それまで中学でも2位、高校でも2位が最高だったので、初めての優勝は嬉しかったとのこと。スケートの魅力を尋ねると、山田さんは少し考えて「頑張った分だけ速くなっていくのでやりがいを感じられるところかな」と言った後、「スピードが出るのが面白いです」とこっこり。奥秋さんも「スピード感です。遠心力を体感するのが楽しい」と言っていました。

山田さんに今年の目標を尋ねると「仲間や後輩たちと去年よりも強いチームにしていきたいです」ときっぱり。「3連覇の自信は？」と水を向けると「あります。ちょっとだけ」とはにかみながら答えてくれました。後輩たちへのメッセージを願いますと「いつも通り仲良く、お互い高め合いながら一緒に頑張っていきましょう！」とのことでした。でも、残念ながら女子の新入部員は今のところゼロだそうです。「ちょっと寂しい」と言っていました。高校生活が楽しいという山田さん。「スケートだけの生活だったら、つらくて心が折れそうになることも正直あります。でもスケート以外の友達が自分のことを褒めてくれたり、一緒に遊んでくれたりして心の支えになっています」とのことでした。

二人を含めたスケート部の今後に期待です。

